

有村のX（旧ツイッター）での発言が、
全国紙コラムに引用されました

令和七年一月二十三日 朝刊

参議院議員
比例代表(全国区)
有村治子



阿比留瑠比の

極言御免



石破外交自民内から猛反発

昨年12月29日、SNSで自民党の有村治子元女性活躍担当相のこんな投稿が目にとまり、ずっとその行方が気になっていた。

「自民党部会等が開催されない年末と言え、私はここ数日、実に悶々としています」「私は一刻も早く自民党外交部会を開催して頂きたいと思えますし、国会質問の機会が欲しい」

「鳩山内閣と類似」有村氏が思い悩んでいたのは、12月25日に中国を訪

問した岩屋毅外相が、部会での審議など党内手続きを経ずに突然、表明した中国からの団体観光客の滞在日数を拡大するためのビザ（査証）発給要件緩和の件である。

「日本が融和的な態度に出で、それが国益として奏功した事案など、未だかつてあったのでしょうか？」そしてそれから3週間以上がたった今年21日、ようやく党外交部会が開かれた

が、やはりビザ緩和に、怒りの声や厳しい意見が相次いだ。

出席した山田宏参院議員は、「ビザ緩和を応援する意見は一つもなかった」と語る。山田氏自身も、インドネシアを訪問した石破茂

首相が11日、プラボウォ大統領との会談で、両国は

「非常に似ている」と述べは「安倍内閣を持ち出すなで、大国の米国と中国の間で、バランスに配慮しながら外交を進めている」などと語ったことについて、こう指摘したという。

「米中でバランスを取るという意味で、鳩山由紀夫内閣と類似している。今のところ、反安倍（晋三）首相）外交としは見えない」

また、別の出席者によると、部会で外務省がビザ緩和について「安倍内閣時代からの観光客誘致の継続」だと説明したことも不快感をあらわした。出席議員から

「非常に似ている」と述べは「安倍内閣を持ち出すなで、大国の米国と中国の間で、バランスに配慮しながら外交を進めている」などと語ったことについて、こう指摘したという。

「米中でバランスを取るという意味で、鳩山由紀夫内閣と類似している。今のところ、反安倍（晋三）首相）外交としは見えない」

外務省がビザ緩和理由を「総合的な判断」と述べたことも「その『総合』の中に自民党は入らないのか」との批判があり、萩生田光一経済産業相からこんな疑問も示された。

「中国人観光客によるオーバーツーリズム（観光公害）も招きかねず、バイも撤去されない中で、なぜ日

本だけが前のめりになり、カードを切っているのか」議論はビザ緩和だけにとどまらず、石破内閣が検討している今夏の「戦後80年談話」についても反対意見が表明された。有村氏は22日、SNSに記した。

「安倍（元）総理が練りに練って出された『終戦70年談話』の国内外での効果・歴史的意義を鑑み、現政権での『80年談話』の発出には反対である旨、発言しました」

部会では外務省が批判的となり、岩屋氏の部会出席を求める意見もあった。ただ、出席議員の一人が部会後に意見を求めた外務事務次官経験者は、こんな見解を示したという。

「外務省だって、忙しい年末に慌てて訪中することもある。日本だけ外交カードを切ることも『よし』としませんよ。外務省もそこまでバカじゃない」

石破首相・岩屋外相ラインが強引に進めた話だとはのめかしたわけである。同盟国である米国と、日本に多数の弾道ミサイルを向ける中国を同列に扱う石破外交は現在、党からも外交当局からも信頼されないのだらう。（論説委員兼政治部編集委員）

「安倍（元）総理が練りに練って出された『終戦70年談話』の国内外での効果・歴史的意義を鑑み、現政権での『80年談話』の発出には反対である旨、発言しました」

部会では外務省が批判的となり、岩屋氏の部会出席を求める意見もあった。ただ、出席議員の一人が部会後に意見を求めた外務事務次官経験者は、こんな見解を示したという。

「外務省だって、忙しい年末に慌てて訪中することもある。日本だけ外交カードを切ることも『よし』としませんよ。外務省もそこまでバカじゃない」